

(高齢者用)

高齢者肺炎球菌予防接種を受ける前によくお読み下さい。

== 福岡市 ==

一 般 的 注 意

※高齢者肺炎球菌予防接種は、接種を受ける法律上の義務はないため、有効性や副反応などについてよく理解された上で、自らの意思で接種を希望される方のみに接種を行います。

※予防接種の安全性の確保と、接種後の副反応被害を回避するため、健康状態や体質などをきちんと医師に伝えましょう。

※接種済証は、確実に保存して下さい。

※過去に高齢者肺炎球菌（ニューモバックス NP）の予防接種をされたことのある人は、この公費助成制度の対象とはなりません。

気にかかることや分からないことがあれば、予防接種を受ける前に担当の医師や保健福祉センター（保健所）にお尋ねください。

高 齢 者 肺 炎 球 菌 予 防 接 種 の 有 効 性

高齢者肺炎球菌予防接種は、肺炎球菌を原因とする肺炎の発病防止や特に重症化防止に有効であることが確認されています。

なお、予防接種を受けてから、抵抗力がつくまでに3週間程度かかり、その効果は約5年間持続するとされています。

予 防 接 種 を 受 け る 前 に

予診票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。基本的には、接種を受けるご本人が責任をもって記入し、正しい情報を接種医に伝えてください。

(1) 予防接種を受けることができない人

①明らかに発熱のある人

一般的に、体温が37.5℃以上の場合を指します。

②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人

急性の病気で薬を飲む必要のあるような人は、その後の病気の変化が分からなくなる可能性もあるので、その日は見合わせるのが原則です。

→→裏面へ続きます

③今まで高齢者肺炎球菌予防接種によって、アナフィラキシーを起こしたことが明らかな人

※「アナフィラキシー」というのは、通常接種後約30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。発汗、顔が急にはれる、全身にひどいじんましんが出る、吐き気、嘔吐(おうと)、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続き、血圧が下がっていく激しい全身反応です。

④その他、医師が不適切な状態と判断した場合

(2) 予防接種を受けるに際し、担当医師とよく相談しなくてはならない人

- ①心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患を有する人
- ②予防接種で接種後2日以内に発熱の見られた人及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある人
- ③過去にけいれんの既往のある人
- ④過去に免疫不全の診断がされている人及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
- ⑤接種する接種液の成分に対してアレルギーを呈するおそれのある人

そ の 他

(1) 副反応について

接種後に注射部位の腫脹や、疼痛、ときに軽微な発熱がみられることがありますが、通常2～3日で消失します。

臨床試験では65例中49例(75.4%)96件の副反応が認められ、その主なものは注射部位疼痛47件(72.3%)、注射部位発赤17件(26.2%)、注射部位腫脹15件(23.1%)、頭痛4件(6.2%)、腋窩痛3件(4.6%)、注射部位瘙癢感2件(3.1%)であったとの報告があります。

稀に、重大な副反応として、アナフィラキシー様反応、血小板減少、知覚異常、ギラン・バレー症候群等の急性神経根障害、蜂巣炎・蜂巣炎様反応が認められています。

また、予防接種と同時に他の病気がたまたま重なって現れることがあります。

予防接種を受けた後、このような接種した部位の異常な反応や、体調の変化などが現れたら、速やかに医師(医療機関)の診察を受けてください。

そのほか、分からない時はお住まいの区の保健福祉センター(保健所)健康課にお尋ねください。

(2) 予防接種による健康被害の救済措置

予防接種を受けた人が、疾病にかかり、障がいの状態となり、又は死亡した場合において、当該疾病、障がい又は死亡が当該予防接種を受けたことによるものであると厚生労働大臣が認定したときは、救済が行われます。